雷の子

「見よ、おとめが身籠って男の子を生む。
その名はインマヌエルと呼ばれる」。
この名は「神はわたしたちとともにおられる」
という意味である。 マタイ1.23

カトリック町田教会
町田市中町3-2-1
電話 042-722-4504
FAX 042-722-4512

いかずちの子

http://www.machida-catholic.jp/

Ego sum

主任司祭 **林 正人**

フランシスコ教皇が来日されました―「た」と書きましたが、この原稿を書いている時点で、まだ教皇様は日本の地を踏んでいません。想像で教皇来日をここに書くことはできませんので、今回は「聖フランシスコ」に絡めて書くことにします。

十年以上前、私は数カ月、イタリアのペルージャに滞在しました。聖フランシスコの町、アッシジは隣町でしたので、ペルージャ滞在中は何回もアッシジへ足を運んだものです。

ある日、フランシスコ教会とクララ教会を結ぶメインの通りから少し外れた、余り人通りのない道をブラブラ歩いていると、両掌に乗りそうな、小さな猫に出会いました。元来猫派の私、屈み込んで手を差し伸べ、「おいでおいで」と言うと、さてヨチヨチと私の方へ近付いて来るではありませんか。流石フランシスコの町、動物も人間の言葉が解るようで、束の間、猫との会話（一方的ですが）を楽しみました。それから、都合三回位でしょうか、同じ猫と見え、交流を深めました。あれから十年以上経過しているので、あの仔猫も今は神様の御許かなぁ、と思うこともあります。

動物が神様の御許に……。そういえば最近読んだ『キリスト教と死』（中公新書）という本の冒頭に、彼の『フランダースの犬』のラストシーン（テレビアニメを落涙しつつ観た方も多いのではないでしょうか）について、次のように書かれていました。「キリスト教では、人間以外は霊魂を持たないとされるので、犬であるパトラッシュは（ネロと）一緒に天国へ入ることはできないはずだ」

この一文だけを読むと、ショックを受ける方も多いかも知れません。確かに、キリスト教では伝統的に、人間のみが「神の似姿」として造られ、「命の息」が吹き入れられた、霊魂を持つ存在とされています。人間以外は霊魂を持たないのならば、例えば犬や猫は肉体が滅んだ時、その存在そのものが「消滅」することになりますが……。

この件に関して、私は「こうだ」という明確な答えを持ちません。ただ確実なことは、神様が動物を創造されたこと、動物をも神様は「良しとされた」こと、そして神様は「永遠」であることです。神様は永遠に存在される方、総ての被造物はその命の内に在ります。「パトラッシュは天国に行けたか？」「ウチの猫ちゃんは今何処に居るのか？」等と心配するよりも、私たちは「神の存在は永遠」、この事実に信頼を置くべきではないでしょうか。「動物の天国行き」を心配するのなら、「私の天国行き」を心配すべきでしょう。何せ罪を犯すのは、被造物のうち人間だけなのですから。

イエス様は、罪を犯すただ一つの存在、人間の救いのために世に来られました。そして私たちが救いへの歩みを進める中で、人だけでなく、様々な動物たちが慰めを与えてくれるのも事実でしょう。そのことについて感謝のうちに祈ることは、決しておかしなことではありません。

イタリア漂泊時、慰めを与えてくれたあの猫に、神様の御許で、私は再会できるのでしょうか？ 私が神様の御許に行くことができたら、の話ですが。

運営委員に誘われて

運営委員 **神山 明子**

私が町田教会に転入手続きをしたのは15年ほど前になると思います。息子が小さい頃は土曜学校や日曜学校に参加し、息子と一緒にごミサにあずかっていましたが、最近は少し足が遠のいていたのかもしれません。そんな時「神山さん、運営委員を一緒にしませんか？」と声をかけられたのです。最初、何の話かよく分からずとても驚いてしまい、「え??私ですか？」と聞き返してしまったことを覚えています。分不相応だと思いましたし、そのような役割は自分には務まらないとも思いました。「今すぐお返事下さらなくていいので考えてみていただけますか？」と無理強いされることもなく気持ちよくお誘いいただきました。私にとって教会は大切な場所ですし、心のよりどころです。でも熱心に通っていらっしゃる皆様と比べると恥ずかしいくらいいい加減なところがあり、毎週必ずごミサにあずかるというわけでもない私です。そんな大役は引き受けられないと思いました。まずは夫に相談しようと思い「教会で運営

委員をやらないかって言われたの。私になんて無理だよね…。どうしよう…」と話したのですが、意外にも夫には「やってみてもいいんじゃない？　これもご縁だと思うよ」と言われたのです。しばらく悩み考えた結果お受けすることに決め、そして引き受けたからには頑張ろうと思いました。ただ、私が最近思うようにしていることは、単に〝頑張る！〟と思うと苦しくなったりつまらなくなるので、何か言葉を足して〝無理なく頑張る！〟〝楽しく頑張る！〟〝出来ることから頑張る！〟〝ご褒美のために頑張る！〟などにしようということでした。運営委員もそんな気持ちでさせていただこうと思いながらお受けしたことを記憶しています。

先日、長寿感謝の日ごミサの後のお茶会で「あら！　若い方がこうしてお手伝い下さっているのね。嬉しいわ。私も昔はこんなふうにお手伝いしたわ」と声をかけて頂きました。決して若くはないのですが…（笑）。長寿の皆様からご覧になると私はまだまだ未熟で若輩者だと感じます。色々なことを学ばせて頂きながら、皆様のお役に立てたらと思っています。

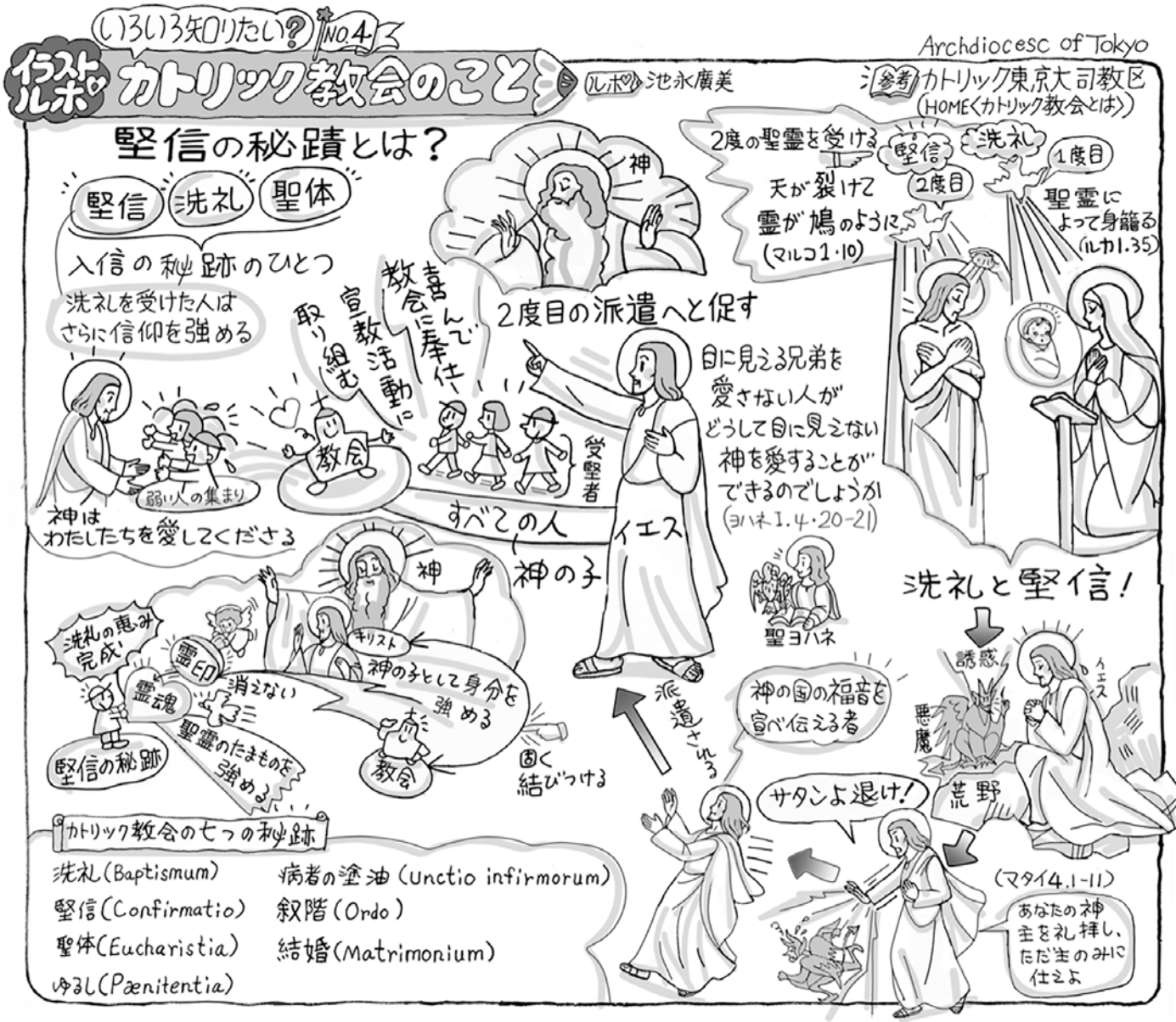
初めての教皇ミサ

鈴木　節子

待ちに待った教皇の来日。東京ドームでの教皇ミサの開始前、今か今かとパパ様を待つ四万五千人の会衆。パパモービレの入場と同時に大歓声があがり、ゆっくりと巡る車の上からフランシスコ教皇は温かいまなざしをむけ、手を振って応えてくださった。途中何人もの赤ちゃんの頭を優しく撫で、慈しむようにキスをするその度に場内の歓声はさらに大きくなり、愛に溢れるその姿はまるで絵のようだった。

ミサは教皇フランシスコ訪日公式聖歌「すべてのいのちをまもるため」で始まり、複数のカトリック学校の生徒たちや麹町教会、韓人教会、スモールクワイヤの方々が聖歌隊。ミサ中の言葉はラテン語、日本語はもとより英語、ベトナム語、韓国語、タガログ語、スペイン語等が織り交ざり、他国の言葉で聞く聖書の言葉はわからないなりにもしっかり聞こうという思いに駆られていた。

祭壇の段差で支えられながら歩かれる教皇は、まさしく我が身を挺してカトリック教会の教えを告げておられた。『家庭、学校、共同体は、一



人ひとりが支えを見出し、他者を支える場であるべきなのに、利益や効率を追求する過剰な競争意識によってますます傷ついて、多くの人が当惑し不安を感じている。真に調和のある人間的な社会の発展を阻む世俗の姿勢に対抗するためには、分かち合い、祝いあい、交わる、これしかない。すべての命を守り、知恵と勇気を持って目前にある命を抱擁し、まるごとすべてを受け入れる共同体となること。主に結ばれ、善意あるすべての人と絶えざる協力と対話を重ねるならば、私達はすべてのいのちをより一層守り世話する社会の預言的パン種となれるでしょう』と（一部動画訳文より抜粋）。

帰宅して早速配信動画を観てみると、静かなパパ様の言葉の中に「素直な傾聴」「自由はお恵み」「善は他者に与えるために与えられた」とあり、改めて目前の指針を見いだせたように感じた。

たくさんの心を込めた祈りは、閉められたドームの天井をも突き抜けて広がっていったことだろう。派遣の祝福を受けた私たちもそれぞれに愛と平和の道具となろう。教皇ミサに与れたことに感謝。パパ様と多くの司祭に感謝。そして神に感謝。

（ミサ会場で撮影＝編集部）

信仰を豊かに生きるために

生涯養成委員会　廣田　和之

教皇フランシスコ訪日の感動の記憶が新しい私たちですが、パパフランシスコの半生を描いた映画『ローマ法王になる日まで』をご覧になった方も多いと思います。

生涯養成委員会では、九月二九日に、『ローマ法王になる日まで』の日本語訳を監修され、また映画パンフレットの解説も書かれた北町教会主任司祭である田中昇神父様をお招きして、「信仰を豊かに生きるために～教会法から見なおすカトリック生活」をテーマに講演会を行いました。

かつて、町田教会の助任司祭でもいらした田中神父様は皆様もご存知のように、教会法の専門家で、教会裁判所で、信徒の離婚などを含む婚姻の秘跡等のお仕事にも携わっていらっしゃいます。

教会法と聞くと、とても難しいもののように感じられますが、実は私たちの信仰生活と密接に結びついています。田中神父様は講演の中で、教会法とは『教会における正しい事柄の基準』『愛徳に根差した正義、キリスト教的生活を常にいっそう完全に生きるための規範（＝正しい信仰生活の規範）』であるということを具体的な例を用いて、私たちにもわかりやすく噛み砕いてお話しくださいました。例えば、教皇文書や使徒的伝承・教会的伝承・慣習などは全て教会法の一部だということです。つまり今、私たちが過ごしている待降節やこれから迎えるご降誕なども全て、教会法の中で位置づけられているのです。

短い時間の講演では、総論的なお話しかお聞きできませんでしたが、私たちが日々の信仰生活を豊かに生きるためには、教会法を知ることも大切だということは、参加して下さった皆様にはご理解いただけたのではないかと思います。尚、田中神父様は現在、イエスのカリタス修道女会のHPで「ミサについて」という連載をされています。どうぞ、お読みください。

田中神父とともに（2019年９月29日）

特別寄稿

主の御降誕（クリスマス）を迎えましょう

大阪教区司祭　申　繁時

町田教会のみなさんお元気ですか。大変ご無沙汰しております。神学生として２００５年度助祭実習と初ミサ２００７年（門間神父様と一緒に）に呼んでいただいて以来12年が経ちました。当時お世話になったのが、神学校のモデラトールを終え町田教会に赴任された頃の高木神父様でした。現在主任の林神父様も神学院の先輩としてお世話になりました。当時のリーダーたちや子供たちとの関わりを懐かしく思います。

私は叙階後、大阪の堺地区、岸和田地区、神戸地区と派遣され、現在は大阪教区から高松教区への応援で、愛媛県南予地区（宇和島、八幡浜小教区）を担当しています。司祭として12年目とまだ駆け出しの神父ですが、関わった教会は13小教区と司牧経験は多少ともあり慌ただしい状態です。今考えると神学生の頃は「なんちゃって神学生」、神学院の「宴会部長」の名をほしいままにしていたのに、神父になった今は司牧現場に追われながらの毎日です。

イエスさまを「大食漢で大酒み」と聖書が言っていますが、イエスさまの心の広さと周りの人々との関りの深さが身に染みている今日この頃です。

12月は私たちの救い主イエスさまが生まれてくださいました。東京都と愛媛県と距離はありますが、同じ信仰をもつ者としてこれからも、なによりも神さまをいちばんにして生きていくことをあらたにしてまいりましょう。みなさんとの再会を楽しみにしています。神に感謝。

愛と信仰のヤコブ祭

ヤコブ祭有志の会代表
福富英里子

前回に引き続き、ヤコブ祭の取りまとめをさせて頂きました。前回は地域ブロック連絡会の議長職と併せて任されたのですが、当時の私は受洗して一年あまりのひよっこ。先輩方のお力添えで何とかやり遂げたものの、ヤコブ祭開催には今迄の経緯を理解している人が必要で、各所との連絡も大切。それを、新しい人が毎回ゼロから取りまとめるのは非効率だし、無理があるなと感じていました。でも苦労したお陰でお知り合いも増え、教会内の動き方も分かるようになったので、経験を生かして再チャレンジしたいと、前任の方、地域ブロック連絡会三役と新しい方にも加わって頂き、「ヤコブ祭有志の会」を発足。オープンで出入り自由の話合いの場を定期的に設け、準備を進めました。

「超大型台風が接近中」と聞いたのは、ヤコブ祭前週。ヤコブ祭前日に関東通過との予報だったので決行としましたが、近づくにつれ、尋常でない台風らしい、と……。

悩みました。中止すれば各所に負担がかかる。延期してもまた台風が来ないとも限らない。決行を貫いたのは、台風通過後の第二ミサに、一人も来ないはずはないという揺るぎない確信があったからでした。準備した形とはかけ離れてしまっても、集まった人で出来る事をしよう。ミサ後、皆で歌を歌って解散してもいい。そんな思いでした。でも、当日朝八時半に教会に到着すると、早ミサ後にテキパキと準備する人の姿がたくさん。そして第二ミサ後、定刻通りにヤコブ祭が始まりました。

残念ながら集まるのが難しかった方もおいでしたが、多くの方が教会に駆けつけ、場内は生き生きと輝く笑顔で満たされました。程よい賑わいの中、ほぼ計画通りの内容を、無事故で終えることが出来たのは、神さまが下さった奇跡だったと思っています。

最後の、林神父様による派遣の祝福は、ここに集って生まれたエネルギーを困っている人たちに届けて、というメッセージと受け取りました。

愛と信仰で一致したヤコブ祭は、私の一生の宝です。本当に有難うございました。

ヤコブ祭バザー
献金総額

243,865円
（含ミニバザー）

内訳
町田教会施設営繕費へ：
143,865円
被災地支援センターへ：
100,000円

ウエルカムテーブル

小平教会巡礼

田澤　三郎

11月16日土曜日、お天気は秋晴れのお出かけ日和となり、ウエルカムテーブルの「小平教会巡礼」が30名参加で実施されました。10時30分発の路線バスで武蔵小金井を出発して小平の「ガスミュージアム」に到着。構内には明治後期建築の2棟のレンガ造り建物が移築保存され、館内にはガス灯など明治時代から現在に至るガスに関する様々な資料が展示されていました。レンガ造りの建物の中で、独特の懐かしさと温もりを感じさせるひと時を過ごしました。

小平教会はガスミュージアムと同じ町内にあり、全員歩いて移動しました。教会では小池神父様と5名の信者の方々が待っておられました。順次到着する巡礼者は、中庭で神父様との暫くぶりの感動の再会の時を過ごした後、聖堂で「ロザリオの祈り」を捧げました。教会ホールに移ると、テーブルの上に用意されたお茶と果物と綺麗に個別包装されたお菓子の温かいおもてなしがありました。各自持参のお弁当で神父様と昼食を共にするひと時は話が尽きませんでした。予定の滞在時間が経過したにも関わらず、神父様は司祭館を案内して下さり、神父様の日々の生活を垣間見るひと時がありました。2時間ほどの訪問はあっという間に過ぎ、別れを惜しみつつ小平教会を後にしました。

その後、歩きの遅い方を少しだけかばいながら小平から国分寺へ電車で移動し、駅近くの都営「殿ケ谷戸庭園」で紅葉狩りを楽しみました。園内にある「紅葉亭」から見下ろす紅葉と池の眺めは、遠くの深山渓谷に一瞬迷い込んだような気持ちを感じさせる景色でした。今が見頃の絶景を鑑賞しながら、深まる秋をしみじみと堪能し、無事巡礼の旅を終えることができました。

この1日の行事全体を通して、参加された方々、小平教会の方々からいろいろな形でお気遣いとご協力を頂き無事に行事を終えることができました。有難うございました。また、帰路立ち寄った居酒屋での親睦会に参加された皆様お疲れさまでした。

「キリスト教を覗いてみよう」の会のこと

久保田　伸

「キリスト教を覗いてみよう」の会（生涯養成委員会主催）は、キリスト教を基礎から学べる入門講座のようなものが欲しいね、との考えで昨年9月にスタートしました。

シスター吉村（汚れなきマリア修道会）の指導で（たまに林神父のときもあり）、今まで「祈りについて」「ミサについて」「聖書について」の勉強をしてきました。簡単な冊子を使いながら、シスター吉村の体験に基づく丁寧な指導で、いつも新しい気づきがあります。

参加者は毎回十数名で、ホームページを見て覗いてみたという方、未信者の方、教会に来て間もない方、プロテスタントの方、前からの教会メンバーなどの多彩な方の参加で進められています。

復活祭やクリスマスなどの教会行事のときを除く、毎月第4日曜日に12時から1時までの1時間で開催されます。私たちが信仰するキリスト教について基礎から学びたいという方、どうぞ覗いてみませんか。

フィリピンのクリスマス

千種　ジェシカ

クリスマスのお祝いに関して、フィリピン人ほど楽しみ歓喜する国はないのではないでしょうか。

フィリピンは、世界で最も長い期間クリスマスを祝っていることでも知られています。

カレンダーの月の名前の末尾に「ber」がつくようになると、フィリピン人は巨大なクリスマスツリーとダイナミックでカラフルなイルミネーションで、家、施設、通りを飾り始めます。ですから、9月（September）には既にクリスマス感を味わうことができるのです。

このクリスマスの習慣は、フィリピンの伝統と西洋の伝統が混在してなっています。

人々は、サンタクロース（または「サンタクラウス」）、クリスマスツリー、クリスマスカード、西洋諸国からのクリスマスキャロルを用意し、しかも、フィリピン独自のランタンを持っています。

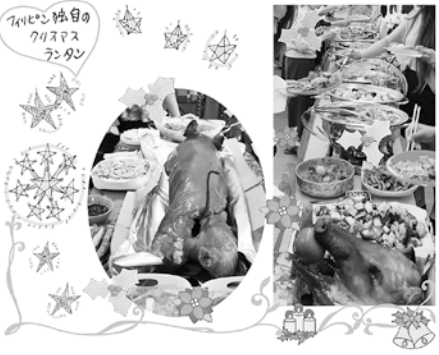
このランタンは伝統的なカラフルな紙、竹の棒、形の五星から作られたユニークなフィリピンのツールで、最も人気のある装飾です。ランタンはもともと、1982年に村人が礼拝やクリスマスの神事をさらに深めるために礼拝堂や教会に向かう道を照示するために作られました。

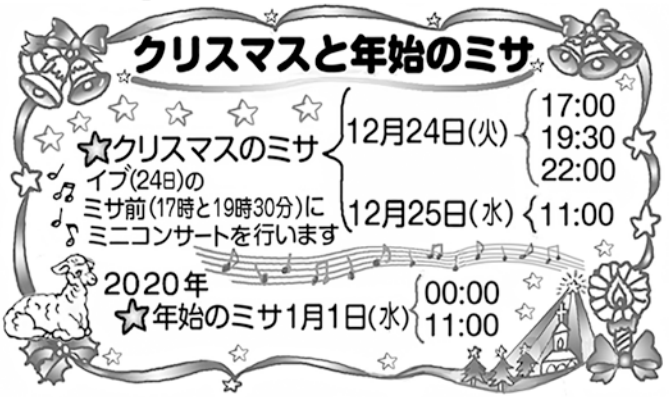
また、ミサは12月16日からクリスマスイブまでの9日間続き、その間、毎日教会へ行き「シンバングガビ」(Simbang Gabi) または「ミサデガリオ」(Misa de Gallo) を誰もが行います。これは、初期のスペイン植民地時代に生まれたもので、シンバングガビは聖母マリアを称えるための9日間の大衆行事となっています。

クリスマスイブはフィリピンではとても重要な日で、ミサの9日間を終えた後、願い

が叶うことを信じ、みな揃って出席します。そして、クリスマスミサの後の真夜中のイベント「ノーチェブエナ」（Noche Buena）を楽しみにしています。このノーチェブエナとは、レチョン、パンシット、ハム、ケソデボラなどのおいしいフィリピン料理のごちそうを家族そろって一緒に食べることです。これは、フィリピンでも人気のある家族の伝統儀式のひとつです。

フィリピン人のクリスマスは、雪や宿木もなく、真夏でのように思えるかもしれませんが、フィリピン人は陽気なひとたちですから、クリスマスがあっても決して不思議ではありません。私たちは、これからもクリスマスを祝うために多くの伝統を生かし、クリスマスの本質、イエス・キリストの誕生を祝い続けることでしょう。





俳句

佐藤　昭子

満天の星一つ流れ御降誕
降誕祭もろびと満ちて息豊か
御降誕イエスと共に聖家族を迎え
胸に垂るクルス光るやクリスマス
　子育てのころ
聖夜祭娘の垂れ髪に集まる灯
　マリア・ヨゼファ井上芳子さんを偲んで
降誕祭亡き友と祝ぐ夢のなか

信者動静

2019年９月～11月

（個人情報のため、削除しています）

編集後記

☆今号は6ページに増頁しました。広く感動と共感を呼んだローマ教皇ミサのレポート（厳しい締切りに間に合わせていただきました）、フィリピンの楽しいクリスマス事情など、待降節にふさわしい記事と写真満載です。

☆「雷の子」次号の編集会議は来年**1月12日9時30分**の予定です。

犠牲献金

中高生会

10月20日　8,682円
（ベロニカ苑へ）
11月３日　12,228円
（ベロニカ苑へ）